

第 282 回 日本体育大学長距離競技会

【出場結果】

実施日 : 12月5日(土) 10000m 12月6日(日) 5000m

会場 : 日本体育大学健志台陸上競技場

出場者 : 小林 航央 関口 大樹

出場種目・出場者・リザルト

氏名	関口	小林
種目	10000m	5000m
組	2組目	15組目
タイム	30'16"30	13'55"17 (自己ベスト) 新電元新記録
順位	8/25	1/25

【レポート】

12月5日(土)に行われた10000mには関口が出場しました。

関口は入社後、本来の調子が戻らず苦しい走りが続いていましたが、今回のレースは1km平均3分を切る29分台に目標を定めました。

先頭集団のペースは1kmをほぼ3分で推移し、関口も集団のペースに身をゆだねて29分台の期待が高まりましたが、残り2000mで集団のペースが上がると着いていけず、そのままペースを落として30分16秒台でゴールしました。

まだまだレースで結果を出すには土台が出来ていないので、来季に向けてしっかりと走り込んで、本来の躍動感のある走りを取り戻してほしいと思います。



12月6日（土）に行われた5000mには小林が出場しました。

先週の東海大記録会では14分09秒台の自己記録をマークしており、今回は大台となる13分台を目標にレースに挑みました。

小林の出場した15組目は13分台の力を持っている選手が集まっている為、レース序盤からハイペースで集団が形成され、小林はいつも通り抜群の位置取りでレースの流れに乗りました。

3000mを8分26秒台で通過したあたりから集団は徐々に縦長になり、小林は集団の後方に位置する様になりましたが、先頭集団の動きを冷静に捉え、きつい終盤を乗り越えると、ラスト1周は小林のスプリントが爆発し、次々と前の選手を抜き去ると残り100mで先頭の選手を捉え、そのまま組1位の13分55秒17でゴールしました。

この記録は、当社の偉大なOBである田嶋健司さんが1974年に国立競技場で元エスビー食品の瀬古利彦選手に競り勝った際に打ち立てた13分58秒を破る新電元新記録となりました。

46年間止まっていた時計を小林が動かしたことで、来季は更に力をつけてOBの田嶋さんの様に、日本を代表する選手達と競い合える選手へ成長して欲しいと思います。



ハイペースにも積極的な走りを見せる。



念願の13分台おめでとう！！

今後とも、皆様の温かいご声援をお願い致します。

以上